



オール専修の力の結束を

日高義博 理事長

1948年宮崎県生まれ。70年専修大学法学部卒業。75年明治学院大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。同年専修大学法学部講師、その後、助教授、84年に教授。88年法学博士。法学部長（2001～04年）、専修大学長（2004～13年）などを歴任。04年より法科大学院教授。06年より学校法人専修大学理事長。趣味の居合は5段の腕前。

専修大学の今、そして創立140年に向けた指針とは。キャンパス整備の内容とともに、日高理事長より育友会へのメッセージをいただきました。

日頃より専修大学の運営に対し、ご支援・ご協力いただき、厚く御礼申し上げます。昨年8月末日に学長職を退任いたしました。引き続き理事長として本法人の運営に尽力しております。学長職の3期9年間は、大学間競争が激化し、大学改革の積極的推進が求められた時期でありました。この間、二極分化の負のスパイラルにも引き込まれることなく、大学改革を推進することができました。育友会のご父母・保護者の皆様の熱きご支援とご協力に感謝致します。

大学間競争の二極分化を脱したとはいえ、大学淘汰の時代はなお続きます。昨年9月から学長に就任された矢野建一教授と共に、大学力の増強を図っていきたいと思います。現在、創立140年に向け諸事業を推進していますが、本学のより強固な人的・物的基盤を構築していく所存です。皆様の力強いご支援とご協力をお願い申し上げます。

東日本大震災後のキャンパス整備は、着々と進んでいます。地震により使用不能となった神田5号館は、この3月に新たな校舎の建設が完了し、4月から利用が開始されています。新5号館に設けたラーニング・コモングの空間は、学問することの面白さを体得する場となるでしょう。生田キャンパスでは、専修大学国際交流会館が5月15日に竣工します。国際交流拠点がキャンパス内に置かれることで、多くの学生がいわゆる学内留学を体験することになりましょう。キャンパスで日常的に多言語が耳に入ってくるという環境

は、グローバル化を迎えた今日では、重要なことです。新体育寮・新体育館については、昨年12月に地鎮祭を行いました。現在は建設工事が進行中です。また、生田2・3号館跡地に建設される大学院棟等の校舎（7階建及び3階建）についても、まもなく着工計画等を提示する予定です。

石巻専修大学においては、昨年4月、新学部の人間学部がスタートしました。地域に根ざした大学としての使命を果たすべく、様々な取組みを遂行中です。

私は、常々、“オール専修の力の結束”ということをお願いしてまいりました。大学は、学生と教職員によって構成されていると考えがちですが、実はそうではありません。本学の21世紀ビジョン「社会知性の開発」を実現するためには育友会の皆様ならびに校友の参加が不可欠です。オール専修という言葉には、本学の使命を果たす上でスクラムを組むべき構成メンバーを結束するという意味が込められています。とりわけ、育友会と校友会は大学運営を支える両輪ともいえるべき存在です。育友会の皆様もオール専修の一員として「社会知性の開発」に向け、共にご尽力いただくことを期待しております。

専修大学は創立以来、135年の間、社会に有為な人材を輩出してまいりました。「学生を基本に据えた大学づくり」をポリシーとして大学運営に尽力致しますので、育友会の皆様には、暖かいご支援とご協力をいただけますようお願い致します。